科目ナンバリング	U-LAS30 10032 SJ11						
授業科目名<英訳>	情報AI基礎演習［理学部］ Practice in Basics of Informatics and AI (Faculty of Science)			担当者所属職名・氏名	理学研究科　准教授　西村　進 理学研究科　助教　大同　暁人 理学研究科　助教　菊地　克彦		
群	情報学科目群		分野(分類)	(基礎)		使用言語	日本語
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	木4/木5	配当学年	主として1回生	対象学生	理系向

[授業の概要・目的]

コンピュータの操作方法およびプログラミングに関する演習を行い，基礎的なIT利活用能力を習得することを目的とする．

PC等の情報機器およびソフトウェアの操作方法に習熟することは学術研究活動のみならず，将来の社会活動全般に関する自らの可能性を広げる大きな力となる．このことを認識して，本演習を通して将来必ず必要とされるIT利活用能力の礎を築いてほしい．

演習は，受講者個々の知識・能力・興味を尊重し，課題選択方式による自学自習形式に重きを置いた形態とする．コンピュータ初心者は基礎を重点に，すでにある程度知識のある受講者はより高度な課題に取り組むなどして本演習を有効に活用してほしい．

[到達目標]

以下に掲げるIT利活用能力の基礎的部分を幅広く習得し，得意な課題分野についてはさらに応用力を養う．

・データ処理と視覚化(Excel)
・プログラミング(Cプログラミング)
・デジタル文書作成と組版(Word, LaTeX), 一部に生成AIの活用を含む

またこれらの課題演習を通して，自己所有のPC等の管理をおこなったり，コンピュータ機器の未知の用法を習得して実践するための基礎的な能力を養う．

[授業計画と内容]

授業回数はフィードバックを含め全15回とする．
受講者は提示された演習課題の中から適宜選択して演習を行って、課題締切期限内に提出すること。

演習課題は、以下の内容に関する必須課題
・本学システムに関する初期設定および基本操作
・学術的誠実性
と、下記３分野に関して出題する演習課題群からなる．
(1) Wordによる文書作成・Excelによるデータ処理と視覚化
(2) C言語によるプログラミング
(3) LaTeXによる文書作成と組版
各分野について基礎的なものから発展的なものまで課題を用意するので，各人の興味と能力に合わせてなるべく幅広くかつ多くの課題に取り組むことを推奨する．

情報AI基礎演習［理学部］(2)へ続く↓↓↓

情報AI基礎演習［理学部］(2)

[履修要件]

本演習では自己所有のPCによる課題作業を必須とします。演習には自己所有PCを持参すること。

[成績評価の方法・観点]

演習課題の提出と採点はすべて学習支援システムLMSを介してオンラインで行う.
提出された課題のうち十分な得点を得て有効と判定されたものの数と種類によって成績評価する.
提出方法・期限を厳守すること.

[教科書]

LMS授業サイトでオンライン資料等を提供する.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時間内だけでなく、課外でも相応の時間を課題演習に割り当てることを想定している．必ずしも授業時間に縛られずに課題を進められるよう，オンライン資料を提供するのでこれらも活用してほしい.
課題は採点後返却するので，間違いの確認などを通して復習を行うこと.

[その他（オフィスアワー等）]

「情報AI基礎[理学部]」と併せて履修することが望ましい(特にプログラミング経験の少ない者).
　授業にはTAも出席しているので，コンピュータの操作方法についての質問等があれば授業中に質問すること．(授業時間外の質問についてはごく簡単なものにしか対応できません.) わからないことについては一人で悩まないでTAや教員に積極的に質問すること.

情報環境機構が提供する情報セキュリティe-Learningを必ず受講し、修了テストを受けた上で、同テストのフィードバックを確認しておくこと.授業内では受講のための時間は設けないので授業時間外に受講しておくこと。同e-Learningは学生も含めた本学の全構成員に対して毎年受講が求められているものである。2回生以上で過去の年度に受講した場合でも今年度まだ受講していないのであれば必ず受講すること.

[主要授業科目（学部・学科名）]